

「人の目標、日本人になること」。6月に出場した第57回外国人による日本語弁論大会で、そう力強く宣言したフランチェニ・エリーザさん。彼女にとって、日本人になることは、外国人のお客さまとしてではなく、日本人と同様に扱われることを指す。リクルートスーツを着て就職活動で緊張したり、結婚式に真っ白な着物で「よろしくお願ひします」と相手にあいさつをしたりしたいと流ちょうな日本語で夢を語り、見事、文部科学大臣賞を受賞した。

イタリア・トリノで生まれ育ったフランチェニさんは日本語の勉強を始めたのは、大学に入ってから。外国語の中でも特に漢字に興味を持ち、中国語と迷った末に、外国語学部で日本語を専攻。予備知識は全くなく「あいうえお」を学ぶところからのスタートだった。

2年前に金沢でホームステイをしたのを機に日本が大好きになり、「また戻りたい」と願うように。そして、国費外国人留学生の選考試験に合格し、昨年9月に兵教大の特別聴講学生として来日。数ある大学の中から兵教大を選んだのは、都会が苦手だったのと、教育分野に興味を持ったからだという。「びっぴりしたのは、授業が日本人の学生と一緒にだったこと。最初は難しかったけれど、日本人として扱われたことが本当にうれしくて、それだけで頑張れました」。勉強以外にも、部活動やアルバイトなどにも積極的に挑戦し、キャンパスライフを満喫してきた。

とりわけ夢中になったのが、よさこい部での活動だ。全身を使って表現するパフォーマンスは想像以上に大変だったというが、仲間と稽古を重ねて絆を深め、全国各地のイベントで演舞を披露してきた。4月からは1年生がたくさん入ってきて、先輩気分も経験。「エリーさん、○○です」と、いつも敬語で話し掛けてくれ、本当にすごいです」と笑顔が弾けた。

ずっと日本に住み続けたいという夢はまだ道半ば。「小学校の先生になりたい。それが無理なら通訳がいいな」と未来に思いをはせつつ、1年間の留学を終えて9月末に帰国した。しかし、「人生の目標」をかなえるために、いつの日か再び兵教大に戻ってくることを強く希望している。

日本での生活を
思い切り満喫
絶対にまた
戻ってきます

キラリな人

フランチェニ・エリーザさん

特別聴講学生(イタリア)

平成5(1993)年、イタリア・トリノ生まれ。トリノ大学在学中の昨年、「2015年度大使館推薦による国費外国人留学生(日本語・日本文化研修留学生)」として兵教大に留学するため来日。「日本人になるのは、可能か」というテーマで応募した「第57回外国人による日本語弁論大会」では、26カ国80人の中から予選を通過し、本選に出場。文部科学大臣賞を受賞した。今夏、日本語能力検定2級を取得。



※フランチェニさんのスピーチの動画は(一財)国際教育振興会のウェブページ(http://www.iec-nichibei.or.jp/iec04_2.html)で見ることができます

